

雜

洒落亭百種總目錄

^ 13
3496



3098

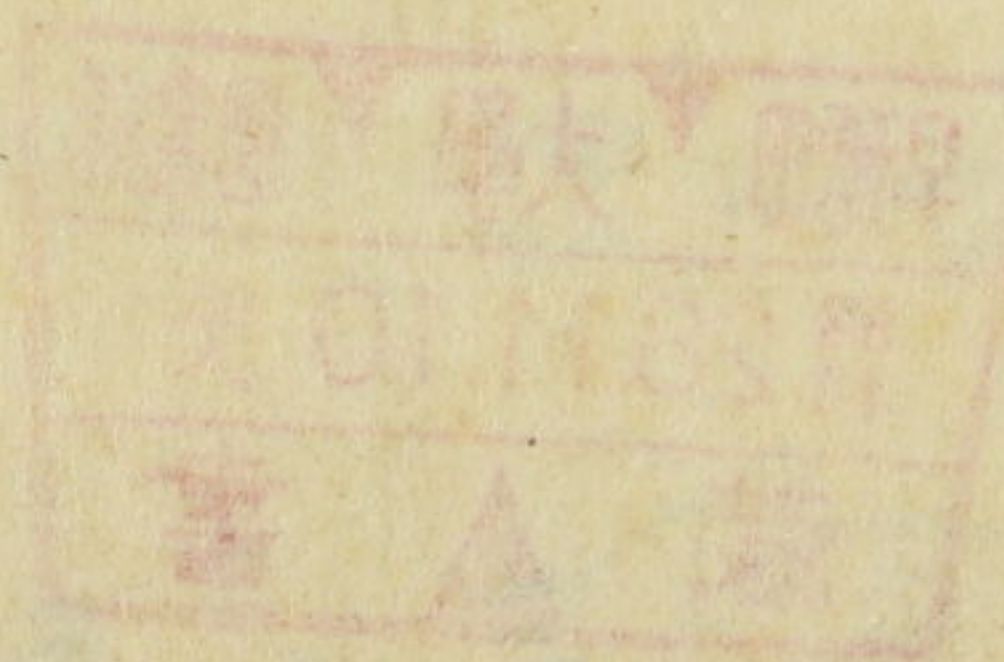
the 1st of the month

the 2nd of the month

the 3rd of the month

the 4th of the month

the 5th of the month



門 18
號 3496
卷



源
落
本
目
錄
之
部

一 高内神

二 尚不通替善運

三 自惚かみ

三、五

二五

二七

早稲田 大學 圖書館
昭和 28.11.10 燹
藏 書

一 國自の自かまのり

二八

一 虚實情の扱

三七

一 田舎 談議

三七

一 田舎 芝居

四十六

一 豊素六帖

三九

一 意氣の

四十一

か行の部

一 起承轉入の

五

一 同 後篇

二

一 滑稽 吉原談話

四

一 同 後篇

五

傾城買虎の巻

六

妓者虎の巻

六

古契三唱

六

傾城買四十平五

九

後篇

九

客家肝鏡

十一

京傳了誌

十三

廊の大帳

十

妓情返草解

十

傾城買二筋通

十六

二筋命(廊の癖)

十七

三筋命(宵の福)

十七

古物尋自之筋示記

十八

甲斐夜の錦

二十

傾城買談客物語

廊節甲

移子磨語

子臟眼

傾城買花白力

喜話美多里

傾城新惠鏡

子大方

月花金情

喜妙圖彙

大行部

廊の意氣地

命力取くら

青標押み穴道入

二五〇

二六〇

二七〇

二八〇

二九〇

三〇〇

三一〇

三二〇

三三〇

三四〇

三五〇

三六〇

三七〇

三八〇

三九〇

四〇〇

一 瑞女備あさひ

一 青橋錦あさひ

一 仕掛文庫

一 白川庭船

一 品川揚枝

一 三教色

一 粹川軍団

一 船頭深託

一 船頭新尾

一 廊心算

一 青橋妖言解

一 寸南波良意

一 貞女意題

一 聖王遊廊

二冊 二冊

十八

十八

十八

十九

十九

十九

二

三

三

三

三

三

三

一 娼妓知理記

一 娼客穴学同

一 俗談談種

一 松樓香語

一 太行部

一 通氣粹語傳

一 通言細事

一 洞房毒談

一 大流道

一 通輪雪談

一 常世の巻

一 茶番

一 辰巳の園

四十

四〇

四六

四八

七〇

十一

十三

十七

四七

四七

四八

三七

東行の部

一 猶射 羅子

二九〇

一 南 極 駝 鈴

三三〇

一 南 園 雜 語

三三〇

北行の部

一 端 是 如 公

二二〇

一 花 成 内 苑 の 春 分 物

二二〇

一 富 貴 川 抄 見

三三〇

一 二 竹 園

三一〇

一 凡 儀 三 不 世

三三〇

一 秘 事 真 告

三九〇

一 郎 尾 三 味 線

四〇〇

一 以 下 の 数 の 子

四〇〇

一 風俗通

四七

ま行の部

一 息ろろ子こ部べ屋や

一 文選部座

一 見み寸すん切けつ部

一 まはまは枕まくら切けつ部

一 美み知ち乃の聖せい切けつ部

一 木き登とう空くう妓ぎ話わ

や行の部

一 游ゆう子こ方ほう言げん

一 林りん土ど良りやうのの玉ぎよ子こ

一 志し原げん楊やう枝し

十一
二
一

七
一
二
四
二
〇
二
一

一 山下 ヤマト 琴作 ハルノ

一 中 ナカ 小 コ の 茶 チヤ 土 ツチ 売 ウリ

一 吉原 ヨシハラ 帽子 カピ 子 コ

一 游 ユウ 姑 コ 宿 ヤク 屋 ヤ 烟 エン の ノ 花 ハナ

一 山 ヤマ あり

十四

十六

十八

二十一

二十九

和行の部

一 和唐珍味

番外

一 落吐 ラクダ 大 オホ 安 ヤス 賣 ウリ

一 落吐 ラクダ 廊 ロウ あり

二〇

四九

四九

・ 總計百冊

解

題

the way come from here

from here

無心共語當寒月
聞時敲日乘此竹
朝雲曉露白雲飛

鄭陪
寶

一 游子^の言

多田屋利兵衛

向う者の半可子自島子とらうあつて

北里に遊ぶ自惚の計思つてん

大ふけの幕中とらうつせろ

比書向あつ年の最初とらう傳ふ

(Faint bleed-through text from the reverse side)

一 廓たもとの意氣地

一九 苑亭ゑんてい和わ三

一 林や上良の王子みこ

享和元

定次さだつぎ京音きやうおん空くう石いし角かく交かう一いつ生せい

定次さだつぎ京音きやうおん空くう石いし角かく交かう一いつ生せい
定次さだつぎ京音きやうおん空くう石いし角かく交かう一いつ生せい
とつ子音遇の師あり

一 起承轉合

字が二

一 世の空 お興 の相方唐 唐 と お興
の連ん 仁三 昂 の 密會 露 題 一
南 倒 と あ る

一 起承轉合

後篇

字が二

仁三唐 の 再度の密會 を あ る
仁三唐 の お方 綾 衣 の 目に は り 破 綻
を あ ら わ い し う

一高内神あきまひ

一九

享和ニ

実吉三郎相方道深ニ命自の
魂膽吊脚等三人一疋の大あけ
なまのをかみあき

一す角力取草

一九

享和四

濱杵屋幸助 扱

実と女郎の取組るゆくの品と
かちと滑靴とつくさ

滑すべ稽古吉原談話

卷魁春の川遊系七三郎二人の情
夫をあつかふの事いふと
大いものゝこゝの翻安あある

滑すべ稽古吉原談話
一名夜廊行燈後篇
作者 桃木金丸 雄とあり

一音^{せい}樓^{ろう}裡^りの^の穴^{あな}這^は入^り

強^{つよ}異^い見^み

色^{いろ}道^{みち}講^{こう}釋^{じやく}の^の体^{てい}に^につ^つり^り作^{さく}者^{しや}初^{しつ}陣^{じん}
の^の實^{じつ}験^{けん}談^{だん}中^{ちゆう}に^に厨^{ちゆう}里^りの^の趣^{すい}と^とつ^つ
て

一^い頃^{ころ}城^{じやう}買^{かい}荒^{わう}の^の美^み田^{でん}螺^ら合^{がひ}魚^{ぎよ}
安^{やす}永^{えい}七^{しち}

妓者虎の巻

天明七

虚實相半存りて河東の妓談

多し

息子那屋

京傳作 天明九

寫り屋重三郎板

粹客の心意氣一切と説く
斯道の六韜と云つへや

一 通 氣 粹 訣 傳

高竹 天明九

カシヤカイ板

文栄堂三崎屋清吉

忠義水滸傳に擬し

傾城買のうからる

一 娼 妓 揃 ぶ り 日 上 寛 政 三

ついで板

梅 忠 の 事 跡 を 日 上 前 に 仕 立 け

書 物 の 一 冊 あり

一 冊 氣 粹 訣 傳 高竹 天明九

一 ^六 契三唱 高傳 天明七

契の契情をさす吉原深川只川の三
唱相寄りりて夏しとえし流れの音し
かゝるに東南小三廓の趣相異
あるを論ずる仕立てく

一 ^ケ 傾城買の十八年

一 志のほろこし
一 やすい年
一 見えぬらましの手
一 ろはくす

一 真の年

一四十八年後篇

馬鹿山人

一青樓錦の裏京傳寛政三

夕露落伴友. 舞所の西落仕主也

三
舞
の
舞
の
舞
の
舞
十

去原楊枝

京傳

天明八

葛重枝

去原やうしの精靈磁石を表徳
せる息子の夢中に見はれて大通
の秘訣を授くる所なき

仕掛文庫

京傳

寛政三

佐々木

曾我兄弟朝比奈國三郎と一正
あはれ孫坂に遊ぶうち大磯の
穿ちちを泣くせり

一客泉肝鏡

京傳

天明六

鳥屋板

作者二十五年歳の作あり

廊中諸種の人物の風俗をうかち

毎廊中挿画あり

一高し
川

庭
解

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一遍言總離 系傳 天明七

花魁押川 客艶次郎 三幸殿
喜之介 ちと 點出 一 小里の
通と書せり

系傳 系傳 寛政二

大樂 通用 皇後 申じの 四書

にして 系傳 皇後 申じの 四書
記さば

ど
洞房奇談 書付 寛政二

一名 敏家干話

北廓のそ界、半可通馬骨大塊

二人の心腹、滑靴をきりか

く
廓の大恨 京傳

大書 鶴勢 調子 雀乃 稲 鶴 子 連

てまつ 済へ 遠出 出 出 出 出
芝の茶 米のく 算中 明く

一山下路作

志水裡所

天明二

上野山下のけふ遊ひ、客四人
の異趣を寫す

妓情^{カキ}返夢解

梅真の里谷

寛政二

一 大^た流通

谷 嶽

寛政十一

契情買の心得會上中下三段
の辨をとかのむすこやに似る

一 傾^け空買二流通 谷 嶽 寛政十一

文里一帝の宴情と描く有海氏
の傑比あり

一 ^カ 中への茶殻 艶示楼へ

通家の對談に托して曲遊

二 伴と赤坂

三 節道の流二編

一 ^ト 宵に程

六 歳

二 三 五 七 九 十一 十三 十五 十七 十九 二十一 二十三 二十五 二十七 二十九 三十一 三十三 三十五 三十七 三十九 四十一 四十三 四十五 四十七 四十九 五十一 五十三 五十五 五十七 五十九 六十一 六十三 六十五 六十七 六十九 七十一 七十三 七十五 七十七 七十九 八十一 八十三 八十五 八十七 八十九 九十一 九十三 九十五 九十七 九十九 一百

一 廊のりせ
二 所道二三句目

一 古物尋日之香記
二 香作

享和元年

原稿本未刊の改書あり

吉原帽子

燈花浪子

品川楊枝

芝罘支

寛政十一

南歌の通言 駕籠の符 謀として
としてぬの 詠 譯 魂 膽 と する 寸

三教色 唐来三和

孔子 釋迦 天竺太神 三所の聖王

遊・振管・齊の孔子 獻詔に以て

和唐珍衛 三和 天明子

長崎丸山唐人の赤い通辞の
滑社名、黒奴の由執をなとさ
を明み人として 絶倒

南窓文集 上巻 尾屋利兵衛 撰

窓より交相する春風の艶情

此方南窓の満社官使客

のくばちとて穿つ

一 游仙堂煙火 釣山人

紙沿小舟とて戸にはま

又音字 松妙とまはむ

一文選 卧坐

狂角

寛政二

北廓と河東此の世界の国侍の借

秘書 夫好於梅の角力 好平の

限とのちす

帰 足 鬚 同

成三樓 鳳雨

寛政二

終 月 許 去 厚 の 壽 過 欠 落 下 下

一見^みせおのこた

世界の北里 元七情の音
明華女帝 清香の情にこたおた

一花^は成回蕙の春の駒
十遍^{しうへん}今^{いま}一向^{いこう}

北里の子界
一^い寸^{すん}の文と花魁^{けい}
胆^{たん}の^の色^{しき}事^{こと}の^の魂^{たま}

一 稗^す所紅國
山手馬鹿人

世界の新宿區

通不道の取合せ 上頭借の市

田市は甚な降臨 流川

あり格好百出す

一 甲^い驛友の錦
宿茶本

秋賀た木ゆと 菊主人

とくらの巻の舟

一 ^ま 廻ま 一 山平山人 天明九

神田伊豆所二月代地中屋善藏

紙次小書の翻案

二 向不道想の善運 山跡蜂満

天明八年

馬場町

江崎屋想兵衛

傾城^け買⁺読⁺客⁺物⁺語⁺ 式⁺亭⁺三⁺馬⁺

幫⁺同⁺猪⁺の⁺合⁺若⁺菜⁺屋⁺の⁺控⁺若⁺菜⁺
と⁺か⁺け⁺控⁺の⁺す⁺ち⁺

一⁺解⁺頭⁺深⁺話⁺ 金⁺甲⁺冊⁺

辰⁺乙⁺の⁺二⁺界⁺古⁺石⁺新⁺石⁺の⁺道⁺と
穿⁺ち⁺し⁺甲⁺冊⁺清⁺き⁺

廊下用

寛政十

東好瀧川亭頭白園幸次か
情も欠落のええ

自換金見

振返亭

天明九

多田屋村告南

息子

亭頭

送者

武左

徒客

色客

等の客ち

毎下

種画あき

格子戯語

寛政二

多田屋村吉街

格子 走路 支向 顔艶の道

中に廊中の故実とありし可

一目の目かす覗 小色あつ丸

五臓眼

女郎の新平 臆魂 浮空の心得
等詳ししとんまろすばかに似
いさ

山^のあらし

柳言下種彦

梅右衛門の云候と請出して圍ひとす
こゝへ道所の念 掃束二人 落合多
ての鏡言女妙しものみおて一向増
なる可い作あり種彦作とありて
な中しよつかり

一 猫射羅子

鹿馬助

幾丸伯高 二人いろいろの時

深川の世とて字に

作高由立馬少

一 美知の蠟燭

芝道兼人婦橋

安永八

新拿 天馬 琴考 祝窟 人

一 深川の粹也

富田川行見

天明二

上總屋刺兵衛

甲之助於いよの口吉野切のいよ

すつとつ子

二の布團

深川水吉

新富の廊下
客女富の新年

ゆ腕の奥儀
とほくで

一廊こと書うら鼻はな文化元

難が卷の後の梅川の其輪の寮
に美の生の中の假の寝ののの々々

一つ松の登の妓の喜の

鸚の鵒の齋の貢の
寛の以の十の二の年の

美の吉の跡の幸の深の室のの情の話のをの夢の
に作のるの却の中の問ののの雨の落の輕の妙のとの夜の

む

南^カ極驛路鈴
逸我寔^カ一

傾^カ城
自^カ力
文^カ化元
周^カ黃金雲裡

青樓妖言解
一箇大志高下量

南の嵐 帰
塩屋主人

ふ川の空舟は七糸のいまよりを
園中一睡れ夢に仕担

可也

一寸南破良意 南鏡堂一尺

安永四年

葛弱鳥の穿らと字の記しあり
別ちつる
改中あり

信實情の夜櫻 梯松亭底鴛

北里の穿ち 言んふえん 銀蝶

三人一士の舞臺をうかす

一素話かほみ美多里

採柴樵夫

享和元年斗

土橋妓談 藝者小いと色男

半長御との意三氣筋を綴る

うらまへ洛洛と挿めり

一内流ふ三石士

銅瓶

天保十二

大坂河内屋敷吉田

すへて大坂川の江立半可子三人の
新地おん

傾城知惠鏡 志水久十

吉原大目 鳥屋重三郎

乞道の傳授を沿程に
あしき事

辰巳の園

宿言先生
多田屋新吉園

深川のそり写し
通言を示す

一 田舎談議

牛の家にお来り

寛政二年

一 真女しんめ意題いだい

丸来山人

安永二年

芝しば神明しんめいのの子こ界かい忠ちゆう七しち松しょう如にょ光こうのの音ね
是こゝろ國くに侍さむらい貞まこと女めのの端はた社やしろ方かたすすののここううららち
のの上うへのの音ね

一 聖 せい 遊 ゆう 廊 ろう

寶曆七年作
天明二年出版

山崎金吾衛尉

三 聖 せい の 登 のぼ 樓 ろう 久 ひさ 且 かつ の せ せ り ぶ ぶ ぶ ぶ
動 うご ぬ ぬ 氣 き 所 しよ 留 りゆう と 表 あらわ す
親 おや 也 や 道 みち 行 ゆ の 林 はやし 凡 たゞ 文 ぶん と 文 ぶん と 文 ぶん

一 異 い 素 そ 六 ろく 帖 てふ

宝曆七年

傳 草 花 前 芳 軒

六 何 亦 次 郎 親

廊 ろう 中 ちゆう の 情 じやう と 唐 たう の 選 せん と 人 にん 首 しゆ の
句 く の 子 こ 寄 よ り せ ぬ 繪 え の 入 い り 舟 ふね の 多 おほ 量 りやう

一 秘事ひじ真ま告つげ

普ふ實じつ之の人ひと

大改遊所の評判

巻後、艶史人相七品考の挿

画あり

一 娼しやう妃ひ地理記

通つう蛇へび樓ろう麻ま阿あ

北里七所の娼家を同郡の地理
に見ると、俗話多し、文辭
頗博、並にの戲作、人情の作、
ありき

一曰舍芝居 万家首丁 天明七

一曰大力

一曰土居

一曰二

一部三味線

深川富岡町

十^十南

南

南

南

東部
中

久

一 雙ま久や藤ふ滿み久く藤ふ 五
五 雙ま久や藤ふ滿み久く藤ふ 六
六 雙ま久や藤ふ滿み久く藤ふ 七
七 雙ま久や藤ふ滿み久く藤ふ 八
八 雙ま久や藤ふ滿み久く藤ふ 九
九 雙ま久や藤ふ滿み久く藤ふ 十

一 杉ま乃の及や之の妓ぎ話わ 五
五 杉ま乃の及や之の妓ぎ話わ 六
六 杉ま乃の及や之の妓ぎ話わ 七
七 杉ま乃の及や之の妓ぎ話わ 八
八 杉ま乃の及や之の妓ぎ話わ 九
九 杉ま乃の及や之の妓ぎ話わ 十

通治雲鼓

雲雀亭書磨

一^ろ治鼓譟種

泥塚散人抄成

一青³妙回景

京傳

字亦三年

新法^小廣

風俗通

招月亭如琴
實以十二

一高きもの巻

同螺金魚

安永七年

一 杉 樓 秘 語

杉 樓 秘 語

原 有 買 心 人 小 甲 杉 樓 秘 語

上 年 中 行 事 抄 記

一茶番 三山与馬 安永二年

常我相言と深地高比比個と云

落出廊 知久良

4
1/23
12
13
14

Handwritten notes in cursive script, including the characters '五' (5) and '六' (6).

Handwritten notes in cursive script, including the characters '七' (7) and '八' (8).

一落
吐
大
要
賞

九

6
+

